



「第22回大里峠越え交流」が開催されました 飯豊山系砂防事務所

10月17日(土)、第22回目となる大里峠越え交流が開催され、約70名が参加しました(実行委員として当事務所からも6名参加しています)。

大里峠交流会は、新潟・山形を結ぶ歴史の道「旧越後・米沢街道」を歩き往時を偲び、周辺の豊かな自然環境や歴史と触れ合いながら、管内の山形県小国町と新潟県関川村との交流を深めてもらうことを目的に、平成6年から開催されています。

大里峠は小国町と関川村にまたがる標高487mの峠で、旧越後・米沢街道十三峠の一つです。大蛇伝説で有名です。明治11年にはイギリス人女性旅行家のイザベラ・バードもこの峠を歩いています(※「日本奥地紀行」という本にでています)。

当日は天気にも恵まれ、9時に関川村側(わかぶな高原スキー場先)から出発し、起伏に富む峠道を心地よい汗をかきながら頂上を目指しました。頂上では、関川村の平田大六村長と小国町の山口正幸副町長が握手をし、祠に木札と折鶴を奉納しました。その後、全員が無事下山し、小国町側のゴール地点である旧玉川小中学校に到着。現地では地元の人々のみなさんがふるまった「大里鍋」を囲んで楽しい一時を過ごしていました。

交流会を通じて、地域のみなさんと当地域の自然環境や歴史について理解を深めることができた一日でした。飯豊山系砂防事務所ではこれからも地域の特色にあった事業が出来るよう努めてまいります。



頂上への道のり、沢を渡り谷を登る



峠頂上での記念撮影



平田関川村長と
山口小国副町長の握手



大蛇伝説について話す峠案内人



羽越河川国道事務所の閉会あいさつ



記念品のコースター